

平成19年度漁港漁場協会女性役員セミナー 開催報告と“浜の井戸端会議”案内

～浜の井戸端会議…交流・連携・協働の“場”をつくります～

富田 宏^{*}
関 いずみ^{**}
(社)全国漁港漁場協会

平成15年度に第1回目を開催して以来、平成19年度漁港漁場協会女性役員セミナーは5年目を迎えました。そして、今回のセミナーでの意見交換の結果、そこで提供される情報や参加者の意見交換の内容、とりわけ活気ある楽しい活動に取り組んでいる浜の女性たちの情報を、(社)全国漁港漁場協会の機関誌である「漁港」の紙面に掲載して、津々浦々の仲間たちに積極的に伝えていこうということになりました。

今号から、雑誌「漁港」に“浜の井戸端会議（女性通信）”欄がお目見えすることになりましたが、このコーナーは、浜の女性たちが自分たちでつくるページです。つまり、浜のみなさんの日々の活動や、全国の仲間たちに紹介したい漁村づくりの話題、悩みや提案など、まさに“浜の井戸端会議”の場にしていきたいと思っています。

みなさん、ふるって、この“井戸端会議”に参加してください。

1. 平成19年度漁港漁場協会女性役員 セミナー開催報告

(1) 全体概要

去る平成19年11月30日（金）に、通算で第5回目となる漁港漁場協会女性役員セミナーが「女性活動を支える連携の仕組みづくり」というテーマで、東京都内（コープビル）において開催されました。出席者は都道府県漁港漁場協会女性役員等39名。

主催者である(社)全国漁港漁場協会の田中会長と、来賓の水産庁防災漁村課淀江課長の挨拶に続いて、これまでの女性役員セミナーに積極的に関わっていただいている富田宏氏（株式会社漁村計画研究所代表）と関いずみ氏（海とくらし研究所代表）から、それぞれ「これまでの研修会での議論の総括と連携の重要性」、「連携に期待すること～女性活動の展開に向けて～」と題した話題提供が行われました。

その後、関氏の司会進行で、漁村女性のさまざまな活動情報や悩み等を浜の仲間みんなで共有し、お互いが連携・協力・協働できる可能性に

ついて、全員参加の意見交換が行われました。

そこでは、活発で熱心な意見がやりとりされ、浜の女性たちの情報交換の場として、(社)全国漁港漁場協会のネットワークと情報ツールを積極的に活用していくことになりました。そして、早速、雑誌「漁港」に“浜の井戸端会議（女性通信）”というコーナーを誕生させ、みなさんの楽しい情報交換の場にしていこうということになりました。

ここでは、みなさんの井戸端会議の場としてこのコーナーが誕生するに至った、第5回女性役員セミナーでの意見交換の概要を紹介していきます。



写真-1 平成19年度女性役員セミナー開催状況

(2) 話題提供

「これまでの研修会での議論の総括と連携の重要性」(富田氏)と題した話題提供では、過去4回行われたセミナーが、参加者自身の刺激や知識の習得には確かに役に立っているものの、必ずしも継続性や広がりには欠けているのではないかという問題が提起されました。

もともと、漁村では男女の役割が明確化していることから女性の社会参画の機会が少ないという認識があり、(社)全国漁港漁場協会を中心とした漁港漁場関係団体では、このような状況を脱した漁業・漁村における男女共同参画をめざし、積極的に女性役員の登用運動を推進してきました。その結果、平成19年9月の時点で全国26名の漁村女性が、(社)全国漁港漁場協会をはじめ、各都道府県漁港漁場協会や漁港漁場関係団体で女性役員として誕生する等の改革が進められました。(各都道府県漁港漁場協会22名、全国漁港漁場協会3名、漁港漁場関係団体1名)

このような背景の中で、女性による地についた漁業・漁村振興を進めるための研修と情報や意見交換の場が必要との認識に立ち、(社)全国漁港漁場協会は、主催・共催のかたちをとりながら、平成15年度から平成18年度まで毎年1回、計4回の漁港漁場協会女性役員セミナーを実施してきました。

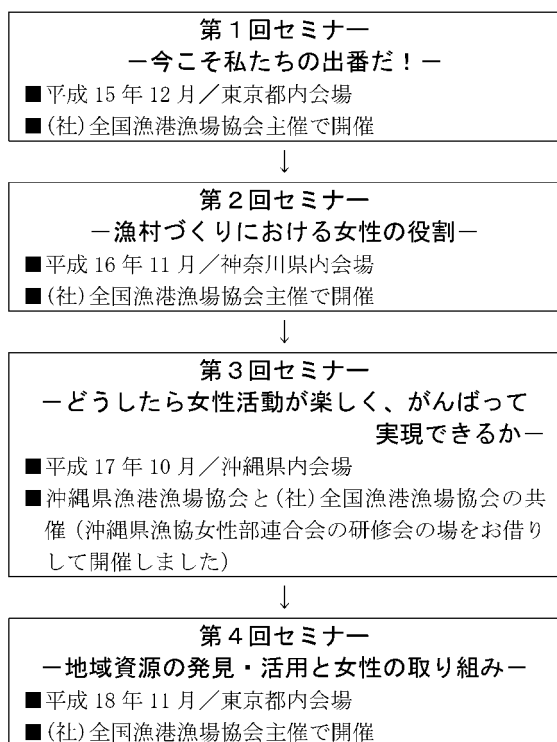


図-1 漁港漁場協会女性役員セミナー開催経緯

参加者のセミナーに対する評価は、概ね好評ではあるのですが、「その時はそれなりに面白く、刺激になるし、その時々参加者の問題意識やさまざまな活動への意欲にもつながった気がするけれど…。そこで得た情報や刺激が果たして浜の仲間には伝わっていったのか?具体的な浜の活動に何かメリットがあったのか」という声も多く聞かれました。



写真-2 話題提供①(富田氏)

つまり、せっかく全国から多くの浜の女性が集まり、話をすることで得られる、新しい刺激的な情報や知識が、セミナーの「時間」や「場」だけに限られ、広い裾野や継続性が確保されていないのではないか、その場であられだけみんなで熱く語った話をセミナーの場だけに押し込めていてはもったいないという意識がみなさんの気持ちとして強かったのです。

一方、第4回セミナーの際に「女性が主人公の漁村活性化」のために何が必要かという議論が行われましたが、その時出されたキーワードの数々…「連携」、「刺激」、「理解」、「共感」、「補い合うシステム」、「相互補完」が重要なんだという意見は示唆的です。

つまり、浜の仲間たちが足りないもの、それはモノかも知れないし、情報かも知れないし、お互いを理解する仲間の存在かも知れませんが、それらをお互いに補完し、連携・協力し合う機会が必要なのだという認識が共有されています。

次に、「連携に期待すること～女性活動の展開に向けて～」(関氏)と題した話題提供では、全国の地域で取り組まれている事例をもとに、

具体的な連携のあり方や、そこで期待あるいは実現されている効果について紹介しました。

例えば浜名漁協では、漁業者（漁業）と住民と観光が無関係に存在していた状態から、この3者を結びつけるNPOを設立することによって、「それぞれの立場から浜名湖の環境をとらえ、協働作業によって環境の保全と浜名湖の持っている豊かな資源の活用を考えていく」というかたちをつくっていかうとする試みが始まっています。



図-2 浜名湖地域の連携事例

また、図書館をつくりたいという思いを地域から発信したことで、支援者との連携が生み出され、29万冊もの蔵書を集めることができた事例もあります。都市漁村交流の取り組みに熱心な全国の市町村等が会員となって結成された都市漁村交流推進協議会（事務局は財団法人漁港漁場漁村技術研究所）では、会員への情報提供や会員相互の意見交換の場といったネットワークづくりを目指して活動中です。

これらの事例は、バラバラに存在しているものがある目的を持って結びつくことで、大きな力を発揮する可能性を持つ点で共通しています。

一方、漁港漁場協会の女性役員セミナーは、年1回とはいえ全国から地域の代表という立場の女性たちが集まりますし、お互いが顔見知りになっています。つまり、既に連携の基盤はできていると考えて良いでしょう。また、これまでのセミナーでは、新たな知識や情報をいかに共有の財産として活かしていくかということが課題となっています。

今回の女性役員セミナーでは、「この会議を核として、これからの漁村の元気に活かしていくようなネットワークづくりをしませんか」という提案をしています。



写真-3 話題提供②（関氏）

(3) 全体討議

話題提供の後、参加者全員参加で全体討議が行われ、さまざまな意見が出されました。ここで、代表的な意見を紹介します。

それぞれの取り組みや活動は千差万別ですが、悩みや課題、問題点は実は共通しているということが、このセミナーに集まった仲間たちとの意見交換の中で発見できたという意見がありました。そのことで、仲間意識が高まったということです。悩んでいるのは自分だけではないという気持ち、共感できる、あるいは相談できる仲間がそこにいるということは、安心や自信につながるのではないのでしょうか。

一方、直販や食堂事業、環境保全活動、体験交流活動に取り組んでいる女性からは、このセミナー企画の一環として体験した先進地研修や、会議での情報交換、講師等からの話が刺激になり、事業を始めるきっかけになったという体験談が披露されました。お互いが刺激し合うことが、浜の活性化の原動力になるということが既に実証されている点で重要な視点です。

また、その人にとっては当たり前のことなのかも知れませんが、話題の流れの中で出たその地域独自の女性活動を支援する制度や体制について、みなさんの興味と関心が集まる場面もありました。このような“出会いがしら”の効果も、実はみんなが集まり、話をすることで初めて生まれるものなのです。

女性活動を支えるさまざまな連携や協力は、地域内の人々や組織の場合もあるし、外の人や組織もありますが、全国の同じ熱意や悩みを共有する仲間と自由な意見や情報交換ができる場

づくりについては、みなさんの賛同を得ました。



写真一 出された意見の数々

2. 交流・連携・協働の“場”づくり

(1) 全国漁港漁場協会のネットワークの活用

(社)全国漁港漁場協会は、各都道府県の漁港漁場協会の系統を通じて全国津々浦々の浜につながっています。また、漁港や漁場、漁村づくりに関する長年の知見や情報が蓄積されており、さまざまな人や組織と密接なネットワークを形成しています。

そして、全国に向けて情報を発信するツール(道具)として、雑誌「漁港」(4回/年発行)の他、「漁港漁場月報」(毎月発行)やホームペー

ジを持っています。

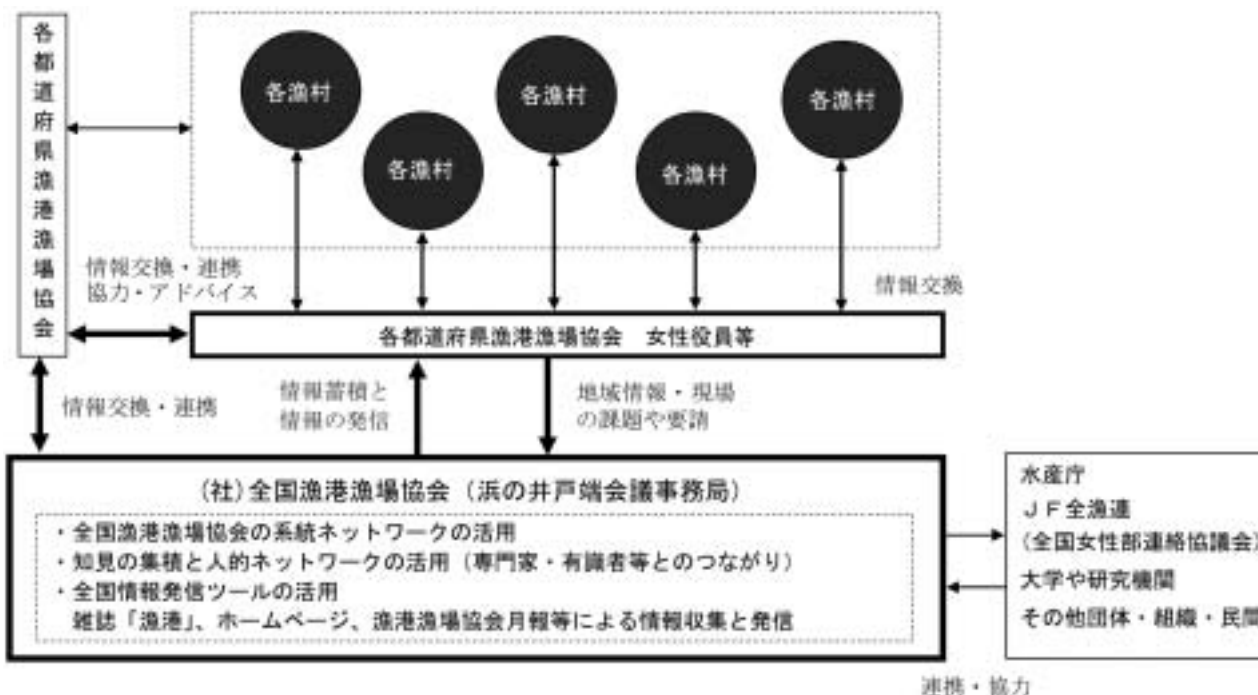
私たちは、漁港漁場協会女性役員セミナーでのみなさんのお話をお聞きして、(社)全国漁港漁場協会の持つ、このような可能性を活かした全国的な“横のつながり”の場を創ることによって、浜の女性たちの悩みや要請に少しでも応えていけるのではないかと考えました。

漁港漁場協会女性役員のみなさんが、各地の浜の女性たちの話を吸い上げ、各都道府県の漁港漁場協会と連携しながら、積極的に(社)全国漁港漁場協会に情報を寄せて下さい。(社)全国漁港漁場協会は、そのような津々浦々のさまざまな情報を蓄積するステーションとなり、同時に全国に発信していきます。

“三人寄れば文殊の知恵”と言いますが、(社)全国漁港漁場協会は、集まった津々浦々の情報を全国のみなさんと共有し、あるいは専門家に相談したりして、うまい解決策や知恵と一緒に考えていきたいと思っています。

そこで、浜の女性の交流・連携・協働の場として、まずは、雑誌「漁港」に“浜の井戸端会議(女性通信)”コーナーを本号から設けます。この“浜の井戸端会議”の場が、浜の女性たちのいきいきとした活動や地域づくりの応援団となることを願っています。

もし、よちよち歩きの“浜の井戸端会議”が軌



図一 漁村女性ネットワーク(浜の井戸端会議)の構成案

道に乗ったら、浜の女性同志の交流の仲立ちや、悩みを抱える浜のみなさんのところにアドバイザーを派遣したり、浜に向く出前ミニセミナーの開催など夢は広がります。

（2） 浜の井戸端会議のしくみ

まずは、この雑誌「漁港」の“浜の井戸端会議（女性通信）”を、みなさんの協力を得ながら、しっかりしたものに育てていきたいと思いません。

しくみはこうです。

（社）全国漁港漁場協会では、協会内に“浜の井戸端会議事務局”を創り、みなさんから浜の情報を集めます。そして、その情報を雑誌「漁港」の“浜の井戸端会議（女性通信）”欄に掲載して全国に発信していきます。どんなことでも遠慮せず、思いついた時に自由にメモして送ってください。お送りいただきたい情報は、以下の1～5の中から1つでも2つでも選んでいただいても結構ですし、全ての項目について提出していただいても結構です。

また、様式も特に問いませんので、是非、奮ってご応募下さい。繰り返しますが、このコーナーは、漁村でがんばる女性たちが自分自身でつくっていくコーナーです。是非、みんなで楽しい井戸端会議の場にしていきましょう。

■集めたい情報1：イベントや活動の予告や案内

これから浜で開催されるイベントや活動の案内やPR等をどしどし送ってください。その場合、できるだけ以下の項目について記述していただくと、効果的です。もしかすると、その情報を見た人がイベント等に参加してくるかも知れません。

- ・日時、開催場所、主催者、イベント等の名称と内容、その他伝えたいことを書いて下さい。
- ・ちらしやポスター等（手作り・印刷問わず）があれば添付して下さい。

■集めたい情報2：イベントや活動の報告

既に浜で開催されたイベントや活動の結果を教えてください。良かった点はもちろんですが、困ったことも是非紹介して下さい。多くの仲間たちの参考になるし、見た人から適切なアドバイスが聞けるかも知れません。

- ・日時、開催場所、主催者、イベントその他活動の名称と内容、その他伝えたいことを書いて下さい。
- ・内容を的確に伝えるのに、活動の写真等があれば添付して下さい。

■集めたい情報3：自慢話

- みんなに教えてあげたい、誰かに話したくてうずうずするような自慢話を披露して下さい。
- ・活動やイベント、運営体制やしくみ、自慢の水産物や加工品等、みんなに話したいことがあれば何でも書いて下さい。
- ・写真などがあれば添付して下さい。

■集めたい情報4：悩みや課題

浜での女性たちのさまざまな取り組みや、女性部の運営や活動に当たっての現実的な悩みや課題をお書き下さい。それを見た浜の仲間から、有益なアドバイスが聞けるかも知れません。

また、より具体的に、専門家にこういうことを聞きたいとか、相談したいという要望でも構いません。浜の井戸端会議の事務局で、寄せられた悩みや課題に対して、的確な助言をくれるような専門家に相談してみます。

■集めたい情報5：その他

その他、全国の浜の仲間に伝えたいことがあれば自由にお書き下さい。

これらの情報は、下に示す「浜の井戸端会議事務局」まで、FAXでも、電子メールでも、郵送でも構いませんので、お送り下さい。

浜の井戸端会議情報送付先

（社）全国漁港漁場協会内 浜の井戸端会議事務局

担当：浜田・福田

〒100-0006

東京都千代田区有楽町1-12-1

新有楽町ビル326号

電話/03-3214-2924

FAX/03-3214-2926

Eメール/info@gyokou.or.jp

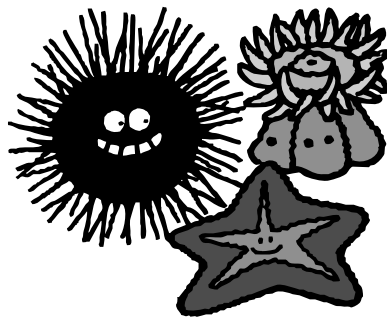
3. おわりに

浜でがんばる女性たちの手づくりの全国ネットワークが誕生しようとしています。

まずは、雑誌「漁港」の“浜の井戸端会議（女性通信）”から始めて、（社）全国漁港漁場協会のホームページにも展開していきたいと思っています。

ますし、先にも述べたように、将来的には、浜の女性同志の交流や、専門家等のアドバイザーの現場への派遣、出前セミナーの開催等も検討したいと思っています。

何だか、わくわくしませんか？どうぞ、一緒に、“浜の井戸端会議”を育てていきましょう。



浜の井戸端会議への投稿

さて、今回、早速ですが、山口県蓋井島の「磯美人グループ」さんからご意見をお寄せいただきましたので、最後に紹介します。蓋井島「磯美人グループ」さんへのご意見や、皆さんの地域の話など、どんどんお寄せ下さい。

山口県蓋井島では、平成14年度から漁協女性部の2名による「磯美人グループ」を立ち上げ、水産物を中心とする島の特産品の宅配を行っています。年々、配達件数は伸びており、リピーターも沢山います。そんな「磯美人グループ」の活動にとって、目下の課題として、“島ではインターネットが利用できない”ということがあり、というお便りをいただきましたので、以下に紹

介します。

浜の井戸端会議に参加しているみなさんは、蓋井島「磯美人グループ」さんのご意見、どう思われますか？

一朝一夕に解決できることではないのかもしれませんが、他の地域での状況なども参考にしながら声を上げ、行政を含めさまざまな機関に働きかけていくことも必要なのではないかと思います。

今回の、「磯美人グループ」さんの第一声が“浜の井戸端会議”のきっかけになればと思っています。みなさんからのご意見やアドバイス等をお寄せください。

お待ちしております。

“不便な地域だからこそ、インターネットを使いたい”

磯美人グループ（山口県蓋井島）

現在、国の事業で、条件不利地域のブロードバンド化の実証実験ということで、離島として初めて蓋井島が選ばれました。けれど、島のインターネット利用は、事業が終わると同時に3月までで使えなくなってしまう。下関市としては今後も島にネットを残すということについては、明確な返事ができないそうです。高齢者の多い島で、インターネットを必要とし、利用する人は少ないだろうということです。

これまで、そんなものに縁のなかった島の人々には無理の無い話ですが、それでいいのでしょうか。私たちの「磯美人パック」は、口コミの情報を通じた電話注文が主ですが、お客様さまにも私達たちにもメールのほうが便利です。

また、今年、息子が結婚して島に帰ってきました。これまで普通にネット利用していたお嫁さんにとって、インターネットができないことが寂しかったと思います。試験期間の現在は、毎日、自分のブログ更新のネタ探しに、楽しそうです。

離島や不便な地域で暮らしているところこそ、インターネットが必要なことを多くの人に知ってほしいと思います。みなさんの応援をお願いします。

（筆者：*（株）漁村計画研究所代表
**海とくらし研究所代表）